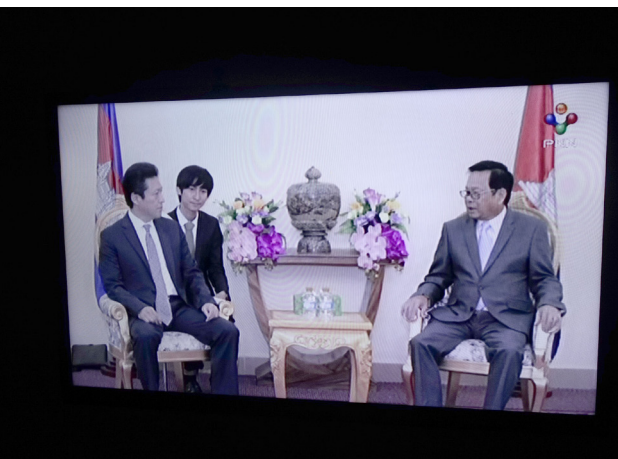




大臣を訪問した東海財界倶楽部一同



地元テレビの取材を受ける様子



訪問の様子を報じるテレビ画面



Japan and Cambodia enjoy cordial relations. REUTERS

Japanese investors eye the Cambodian market

May Kunmakara
kunmakara.may@khmertimeskh.com

A group of Japanese investors are now visiting Cambodia in search of business opportunities in manufacturing and the service sector.

Mr Sam Heng, the Minister of Labour and Vocational Training, met yesterday with Yoshio Kondo, the director of Procast Asia, who is leading a delegation of businessmen from the Toukaizaikai

Association, an organisation that has more than 300 member companies in the manufacturing industry and the service sector, including financial services, tourism and healthcare.

Mr Sam Heng told reporters after the meeting that the group's intention is to gather information on the investment climate in the kingdom and the reality of doing business here to allow them to make informed investment decisions.

"I told them about the many incentives Cambodia offers to

foreign investors as well as the excellent relations our governments already enjoy. I also explained that Cambodia is now a stable nation ripe for investment," Mr Sam Heng said.

"I do believe they will invest in our country in the near future. Their investments will create new jobs and aid the economic development of the nation," he added.

Mr Kondo told reporters the delegation has not made any decisions yet, but hopes they will decide to invest in Cambodia because he

sees great potential in the country.

"We see a lot of potential in the technology sector here," he said.

According to the latest figures from the Japan External Trade Organisation, exports to Japan amounted to \$334 million in the first quarter of the year, an increase of more than 37 percent compared with the same quarter in 2016.

Japan is the third largest investor in the country. Since 1992, it has also been Cambodia's biggest donor, giving more than \$2 billion in official development assistance. ■

Singapore to freeze number of cars

SINGAPORE (AFP) - Singapore, one of the most expensive places in the world to buy a vehicle, has announced it will freeze the number of private cars on its roads from next year but vowed to expand public transport.

The growth cap for all passenger cars and motorcycles will be cut from 0.25 percent a year to zero with effect from February, the Land Transport Authority (LTA) said.

The affluent city-state of 5.6 million people already imposes a quota on the number of vehicles sold and the number on its roads, and has avoided the massive traffic jams that choke other Asian cities.

Singapore makes it costly for those wanting to buy a vehicle, who must first get a "certificate of entitlement", valid for 10 years - the average cost of a certificate is currently around S\$50,000 (US\$37,001).

A Toyota Corolla Altis, a five-door sedan, can cost up to around S\$111,000 in Singapore, including the price of the certificate, or about four times what it costs in the US.

There were more than 600,000 private cars in Singapore at the end of 2016.

No timetable was given for the freeze but the number of buses and goods vehicles will be allowed to continue growing. ■

In a statement announcing the change Monday, the LTA said 12 percent of Singapore's total land area was already taken up by roads and there was limited room for expansion.

However it said the government would spend S\$28 billion over the next five years to expand and upgrade the transport system, including the metro, which has recently faced criticism for a series of breakdowns. ■

翌日の新聞にソムヘン大臣訪問の記事が掲載



東海財界倶楽部訪問団がカンボジアの労働・職業訓練省大臣と面談

It has for place million friendly or subur attract a nical tale World-claimed would ge total spe billion in

面会では、近藤社長が東海財界倶楽部の概要と、この日の訪問メンバーについて説明。ソムヘン大臣が「皆さんを喜んで歓迎したい」とあいさつし、「カンボジアと日本の友好関係はANAの直行便が就航したことで証明されているが、カンボジアは平和で安全で、すべての都市で安心できるため、日本の運送、電気機械などの企業に来てもらっています。企業の活動を保障し企業を守る法律も整備されており、日本の企業がカンボジアへの投資を一層進めていただけることを期待しています」と述べた。

また、近藤社長をはじめとする方々には専門的な人材育成に協力してもらっていると謝意を示した上で「人口は一五〇〇万人の国で、規模などでは小さいが、欧米からの投資も進んでいます。賃金についても政府として取り組み、投資企業の協力もあって着実に上昇しています。カンボジアは人材に溢れている国だと思っています。労働環境も安定しており、皆さんのような日本の企業もカンボジアで人材を活用して物を作って、日本で売ればきつと儲かります。カンボジアへの投資はビジネスのほか農業関係なども考えられます」と日本からの投資に強い期待感を示しました。

また、先の衆議院選挙を受けて「安倍政権が続くとみられ、日本

東海財界倶楽部のカンボジア訪問団の一行（代表・塚本隆・中部財界フォーラム社長、他八名）は、十月二十四日（現地時間）、首都、プノンペン市内の労働・職業訓練省でイト・ソムヘン大臣と面会し、ビジネス、人材交流を通じた日本とカンボジアの友好関係推進について意見交換した。訪問団メンバーは別掲の通りだが、一〇年以上前からプノンペンで、日本語学校を運営するなどして、カンボジアの若者の人材育成に取り組んできた「プロキャスト・カンボジア」の近藤芳央社長の仲介で面会が実現した。

したが、大臣との面会が行われた労働省一階のVIPルームでは、地元プノンペンの有力テレビ局が面会取材しており、面会終了後、複数のテレビクルーや新聞記者から塚本代表、近藤社長へのインタビューが行われた。カンボジアへの投資などについての計画などの質問が出され、近藤社長は、「プノンペン市内にカンボジア政府の



授業中の風景



日本語学校では高度な教育が行われている



大学屋上から見た風景



建設中の大学は完成間近

協力も得て日本の介護技術を教える介護福祉の大学を立ち上げる計画が進められています。認可され次第、来春には一〇〇人の学生を受け入れる予定。事業費は約三億円、今後さらに他の分野での教育投資にも力を入れて、カンボジアに貢献できれば、と考えています」などと答えていた。

大学の開設はカンボジアの若者に日本語や介護に関する知識などを修得してもらうのが目的だが、強みはソムヘーン大臣も指摘したようにカンボジアの人材育成を政府としても強力な支援を約束している点。日本の企業などの協力で、成長したカンボジアの若者が日本ばかりではなく、アジア、世界で活躍する日も遠くはない。

カンボジアは、活気に満ちた若い人々の国との印象だ。早朝、午前六時半過ぎ、プノンペン幹線道路にはバイクの大波があふれ出し、ぶつかりそうになりながら巧みに勢いよく前進していく。名古屋市とほぼ同規模の人口とはいえ、早朝のエネルギーッシュな街の表情は比べようもない。

周辺の姿は年ごと、いや日ごとに変わるといふ。都心の巨大ビル群の近くでもクレーンが新たなビルづくりを進め、古い街並みとの共存、というよりもせめぎ合いが街の表情を変えている。福祉大学が立地する郊外も開発の波が押し寄せているのが、大学屋上からも見て取れた。地価も上昇中といい、投機目的の不動産建設も想像にたかない。成長真っ只中の「伸びゆく都市」のイメージだ。

当然、マスコミの関心も、人材育成を含めて、外国からの直接的な投資に向かっているようだ。大臣に面会した後の訪問団に対して行われた記者の質問も投資額、今後の予定などに集中していた。テレビは当日、訪問団と大臣とのやり取りを放送。翌日の新聞「KHMER TIMES」では大臣が記者団に東海財界倶楽部の訪問団について語った内容を報道。記事では大臣が「近い将来、彼らが我が国に投資してくれると信じている。そして彼らの投資は新たな仕事を生み、我が国の経済的発展を支えてくれるはず」と語った、と

している。

「カンボジア、労働大臣面会メンバー」

塚本隆（中部財界フォーラム社代表取締役）、近藤芳央（プロキヤスト代表取締役）、片岡信恒（弁護士）、河崎徳弘（安全警備代表

世界で通用する人材を育成する 日本語学校を視察

カンボジアで日本語学校を運営しているプロキヤスト・カンボジアは一二年前からプノンペンで事業を展開してきている。日本語と様々な技術を学んだカンボジアの若者が既に日本で活躍しており、大量の労働力不足が進みつつある日本で、大きな応援団に育てようとしている。訪問団の一行は、十月二十四日、プノンペン市内の日本語学校を視察。初級から上級まで、各クラスに分かれて、熱心に学ぶカンボジアの若い男女の姿に感動していた。

日本語学校に加えて新たに設置計画が進められている大学は「カ

取締役会長）、岩瀬洋文（税理士法人アクシス執行代表社員）、渡辺錠一（公認会計士協会東海会事務局長）、村中麻生（医療法人美生会理事長・院長）、藤本孝治（ポルト代表取締役）、同行取材・中原道文（月刊東海財界編集顧問）。

ンボジア日本技術大学」で、カンボジアの未来を担う次世代のリーダーを育成するASEAN初の本格的介護大学という。当面は国際社会福祉学部介護学科として一学年定員一八〇人、二年制。介護福祉について学び、介護技術を身に付けるコースでスタート。現在、申請中で、校舎も着々と完成に近づいている。

一行は建設工事現場を視察したが、一階には日本の特別養護老人ホーム、障害者用トイレ、日本の一般家庭にある和風の部屋など実物を再現して、リアルな空間で実地指導していくとしている。一行

は、日本への人材供給だけでなく、世界で通用する高度人材育成という、新しい発想の教育機関に期待感を持った様子だった。

大学を運営するのは、法人JQC（東京都千代田区）で、副学長就任予定の酒井亮さんは「日本では高齢者介護の人材不足は進む一方で、カンボジアの優秀な人材を送りたい。介護の単なる技術の伝授だけではなく、大学が重視しているのは、コミュニケーション能力。介護の基本的な考え方を提案しているが、技術に偏らない介護人を養成することで、日本で受け入れられる人材育成を進めていきたい」と抱負を語っていた。

JQCの役員でもある近藤社長は将来構想について「カンボジア独自の介護に、日本のホスピタリティを加味して新しいリーダーを養成してカンボジアを介護人材大国にしたい。大学は今後、製造、IT企業など様々な分野で活躍できる人材を育成するため、学部を増やしカンボジアの優秀な若者の夢を実現するため総合大学化を目指したい」と意欲を語っていた。